

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

公開実用平成4-32993

⑨日本国特許庁(JP)

⑩実用新案出願公開

⑪公開実用新案公報(U)

平4-32993

⑫Int.Cl.

B 65 D 85/57

識別記号

厅内整理番号

H 8921-3E

⑬公開 平成4年(1992)3月17日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑭考案の名称 記録坦体収納容器

⑮実願 平2-73655

⑯出願 平2(1990)7月11日

⑰考案者 三廻部 健三 神奈川県平塚市真土2480番地 三菱樹脂株式会社平塚工場
内

⑱出願人 三菱樹脂株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目5番2号

⑲代理人 弁理士 近藤 久美

明細書

1 考案の名称

記録担体収納容器

2 実用新案登録請求の範囲

薄板状の容器本体の底面に立壁を形成して記録担体とほぼ同じ大きさの収納部を形成するとともに、該容器本体の一側部に蓋体を回動自在に軸支してなる記録担体収納容器において、上記立壁に記録担体の上面を係止する係止突起を形成したことを特徴とする記録担体収納容器。

3 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、カード、ディスク等の薄板状記録担体を保管、運搬、展示する収納容器に関する。

(従来技術およびその課題)

従来、カード、ディスク等の薄板状記録担体を保管、運搬、展示する収納容器としては、第6図に斜視図で示すように、薄板状の容器本体1の底面に立壁2を形成して記録担体3と同じ大きさの収納部4を形成するとともに、該容器本体1

の一側部に蓋体5を回動自在に軸支してなる記録担体収納容器が知られているが、この場合、収納部4内に記録担体3を収納するには、第7図に収納した状態を断面図で示すように、別途準備したクッション材6を記録担体3上に載置し、蓋体5内側に挿入した説明書7でクッション材6を介して記録担体3を押えることにより、保管や運搬中に記録担体3ががたつくのを防止していた。

しかしながら、この場合別途クッション材6を準備しなければならず、またクッション材6を記録担体3上に載置するのに手間を要していた。

(課題を解決するための手段)

本考案は、上記従来の点に鑑みなされたものであって、薄板状の容器本体の底面に立壁を形成して記録担体とほぼ同じ大きさの収納部を形成するとともに、該容器本体の一側部に蓋体を回動自在に軸支してなる記録担体収納容器において、上記立壁に記録担体の上面を係止する係止突起を形成することにより、収納した記録担体ががたつくを防止したものである。

(実施例)

以下本考案を図面を参照して説明する。

第1図は、本考案の記録担体収納容器の一実施例を示す斜視図、第2図は記録担体を収納した状態の要部を示す拡大断面図、第3図は本考案の別の実施例において記録担体を収納した状態の要部を示す拡大断面図、第4～5図は本考案の更に別の実施例を示す斜視図である。

本考案の記録担体収納容器は、第1図に斜視図で示すように、薄板状の容器本体1の底面に立壁2を形成して記録担体3とほぼ同じ大きさの収納部4を形成しており、該容器本体1の一側部に蓋体5を回動自在に軸支して、記録担体3を収納部4に収納する点は従来と同じであるが、本考案においては、立壁2に記録担体3の上面を係止する係止突起8を形成したことによる特徴がある。該係止突起8を形成することにより、第2図に拡大断面図で示すように、記録担体3の上面が係止突起8により係止されて、記録担体3の保管あるいは輸送中に記録担体3ががたつくのを防止することが

できるのである。係止突起8の形成箇所は4箇所程度とすれば良い。

図示したように、立壁2の下部に受片9を形成しておくと、記録担体3の下面が容器本体1の底面から浮き上った状態となるので、記録担体3を取出すとき、取出し容易となるので好適である。

係止突起8は第1～2図に示したものに限定されず、第3図に拡大断面図で示すように、立壁2に形成する係止突起8を鉤形としても良い。

また、第4図に斜視図で示すように、容器本体1の底面に切欠き10を形成すると、記録担体3を指でつまんで取出す際、記録担体3の取出しが容易となるので好適である。さらに、第5図に斜視図で示すように、容器本体1の底面に弹性片11を形成すると記録担体3のがたつきを確実に防止することができるので、一層好適である。

(考案の効果)

以上の通り、本考案によれば、薄板状の容器本体の底面に立壁を形成して記録担体とほぼ同じ大きさの収納部を形成してなる記録担体収納容器に

おいて、上記立壁に記録担体の上面を係止する係止突起を形成したから、記録担体の保管または輸送中に記録担体がたつくことを防止することができるなどの利点がある。

4 図面の簡単な説明

第1図は、本考案の記録担体収納容器の一実施例を示す斜視図、第2図は記録担体を収納した状態の要部を示す拡大断面図、第3図は本考案の別の実施例において記録担体を収納した状態の要部を示す拡大断面図、第4～5図は本考案の更に別の実施例を示す斜視図、第6～7図はそれぞれ従来の記録担体収納容器を示し、第6図は斜視図、第7図は記録担体を収納した状態を示す断面図である。

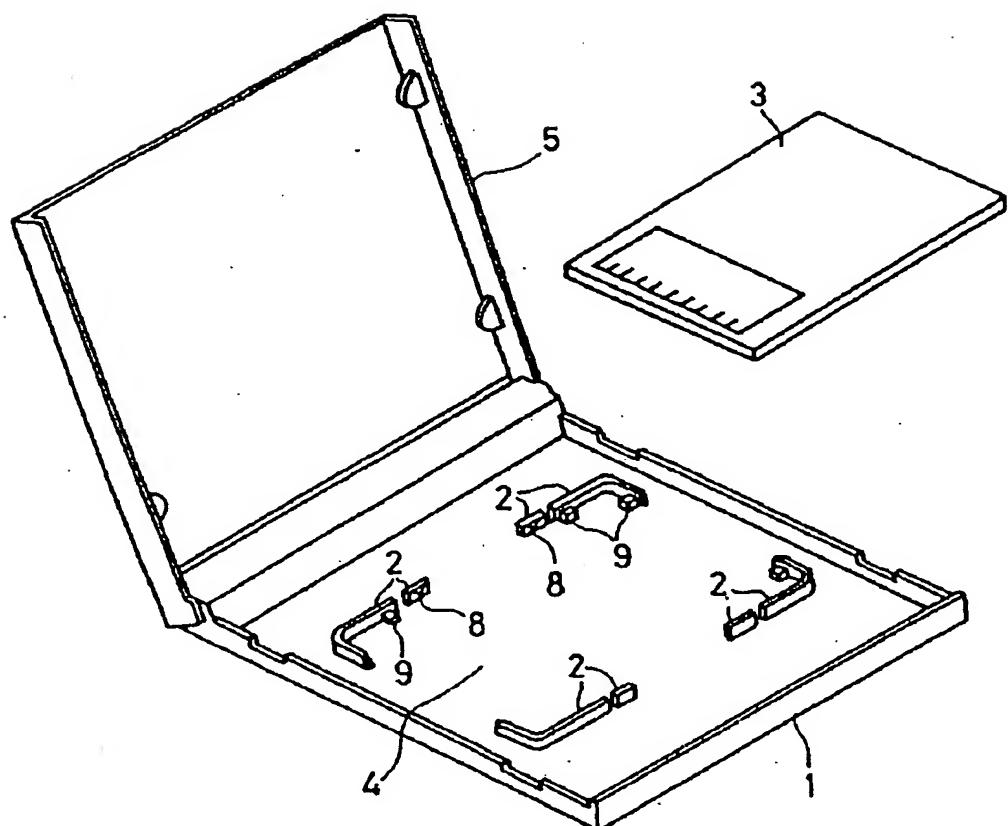
図中、1は容器本体、2は立壁、3は記録担体、4は収納部、5は蓋体、8は係止突起、9は受片、10は切欠き、11は弾性片である。

实用新案登録出願人 三菱樹脂株式会社

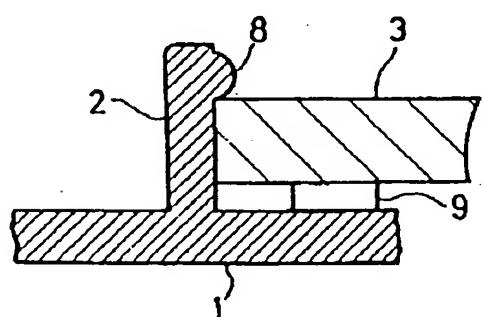
代理人 弁理士 近藤久美

公開実用 平成 4-32993

第 1 図



第 2 図



実用新案登録出願人

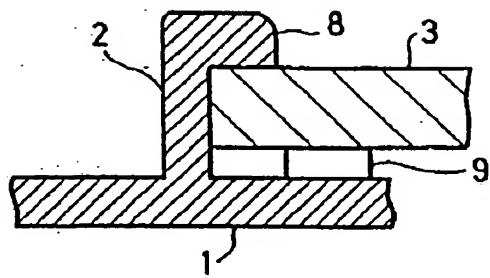
三菱樹脂株式会社

代理人弁理士

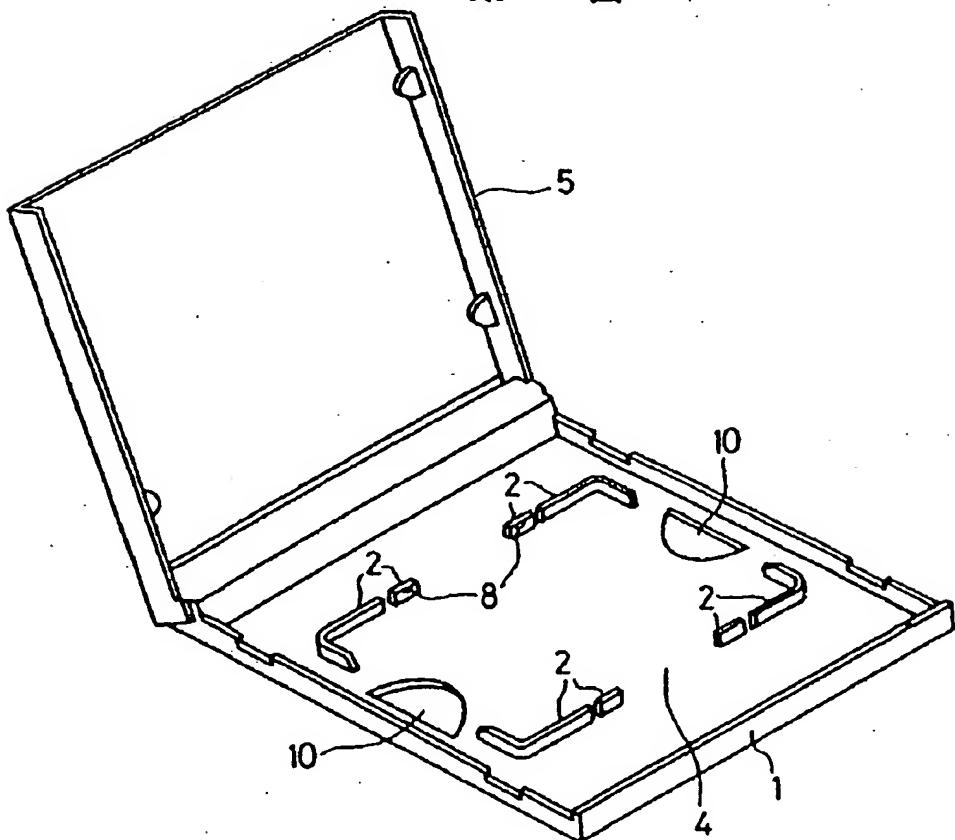
近藤久美

1161
実開4- 32993

第3図



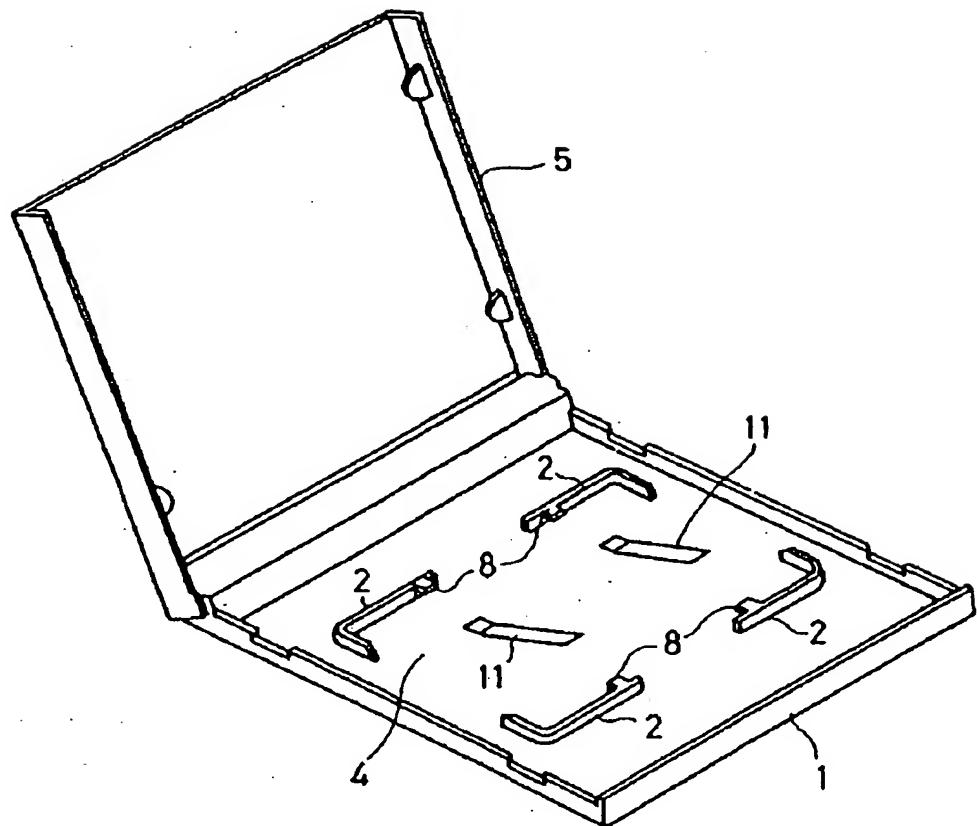
第4図



実用新案登録出願人 三菱樹脂株式会社
代理人弁理士 近藤久美

1162
実用4-32993

第 5 図



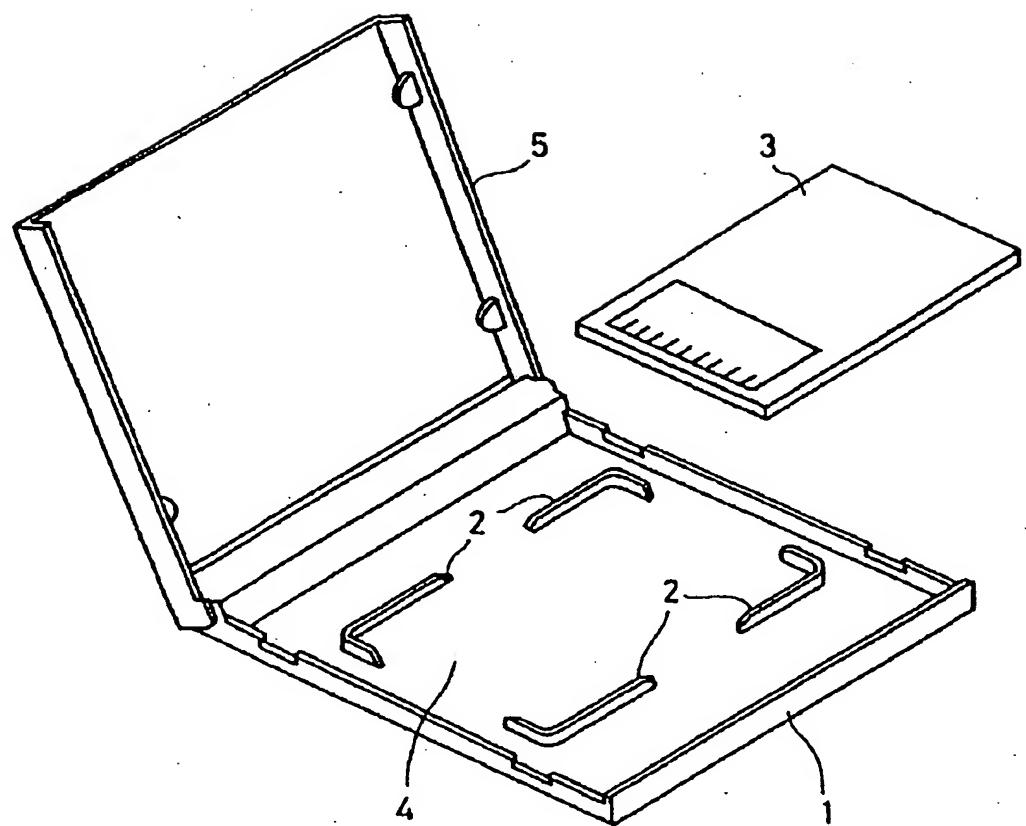
1163

实用新案登録出願人 三菱樹脂株式会社

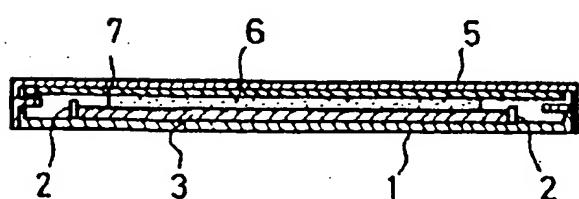
代理人 弁理士 近藤久美

実用4- 32993

第 6 図



第 7 図



実用新案登録出願人
代理人弁理士
三菱樹脂株式会社
近藤久美

1164

実開4-32993